

## 令和3年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査について

### 1. 学力検査結果の概要

本概要は、令和3年3月4日に実施した学力検査における受検生の解答と得点状況を総括し、受検生の学力の傾向を示している。なお、過去の平均点や得点状況のデータも参考として掲載しているが、年度により問題の難易に差があるため、単純に経年比較することはできない。

#### 【全般】

本検査は、中学校学習指導要領に沿って日頃の学習で積み上げられた基礎学力を測るものであるとともに、問題作成にあたっては、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力等を問う問題を重視した。

学力検査結果全般から読み取れる学力の傾向は次のとおりである。

- ①基礎的・基本的な事項については概ね定着してきている。
- ②文章・図表などの内容や何が問われているかを正確に読み取り、複数の知識・技能を結び付けて活用する力や適切に表現する力に課題がある。

#### 【国語】

漢字の読みや書写、古典の知識、基礎的な読解力、話し合いの話題の方向の理解など、基礎的・基本的な事項は正答率が高く、よく身につけていた。文章読解では、短答式や選択式での正答率は高かったが、記述式での正答率は低く、答えの要素が不足した解答が多かった。文章を正確に理解して要素を読み取る力や、必要な要素を入れて適切に説明する力に課題がある。作文では、自分の考えの裏付けの説明が不十分な解答が多かった。文章の内容を正確にとらえ、問われたことに対して適切に説明する力や、自分の考えの根拠が適切に伝わるような、説得力のある文章を書く力の育成が望まれる。

#### 【社会】

例年と同じく、様々な資料を読み取ったり、思考・判断したことを決められた字数内で表現する力をみる問題等を多く出題した。全体として昨年度より無答率は低く、粘り強く取り組もうとする姿勢が見られた。一方、問題文で問われていることを的確に捉え、資料を読み取った上で思考・判断・表現する問題では、資料の読み取りに止まったりあいまいな知識を元にした表現となった解答も見受けられた。問題として問われている内容を理解し、授業で学んだ知識や資料活用の技能を用いて、諸資料から導き出せる社会的事象の背景や意義等について思考・判断するとともに、その内容を適切に表現できる力の育成が望まれる。

## 【数学】

基本的な知識を問う問題や計算技能をみる問題については正答率が高く、基礎的・基本的な事項の定着がうかがえる。一方、用語の意味について曖昧な捉え方をしている解答も多く見受けられる。文章やグラフから必要な情報を読み取り、活用していくことが必要な問題についての正答率は低かった。文章を正しく読み取った上で式による表現をしていくことや、式やグラフの表す意味を理解して活用していくことに課題が見られる。情報を整理して数学的に考察し表現する力、身につけた知識・技能を解決に活用する力の育成が望まれる。

## 【理科】

全般的に基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率は高く、平均点は例年よりも高かった。無答率も例年と比べて低かった。一方、計算や作図など、思考力・判断力・表現力を必要とする問題の正答率は低かった。自然の事物・現象について主体的に探究し、基本的なことを正確に理解するとともに、文章やデータなどを読み取る力や、観察・実験の結果・考察を文やグラフなどで正確に表現する力、実生活や他教科で身につけた知識・技能を活用する力の育成が望まれる。

## 【英語】

基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率は概ね高かった。一方、様々な場面で英語を使うことを想定した問題が多かったため、授業での幅広い言語活動に苦手意識を持つ受検生にとっては、時間内に的確な解答を作ることが難しかったと思われる。英文の内容や場面設定を理解した上で表現する問題では、条件に合わない解答が多く見られた。目的や場面、状況などを設定した言語活動の中で、自信を持って使える語彙を定着させながら、複数の技能を効果的に統合して活用する力の育成がさらに求められる。